



# とらいあんぐる



2020 年 1 0 月

一音会ミュージックスクール発行

## 「道」

音楽の道に進んだ人が、かならずと  
いってよいほど、きかれる質問の1つ  
にこんなものがあります。

「なぜ、音楽の道に進んだのです  
か？」

それほど、音楽の道に進むことは特  
殊なことです。

逆に、「なぜ、音楽の道に進まなかつ  
たのですか？」ときかれることはあり  
ません。

普通は、です。

ですが、きかれることもあります。

それが私です。数えていませんが、  
おそらくこれまで、数十回きかれてい  
ます。

「なぜ、アヤコ先生は、音楽の道に  
進まなかったのですか？」

一音会を創設した私の母、江口寿子  
は、音楽の道ひとすじの人でした。

高校進学の際にすでに音楽の道を選  
び、以来、病気で自身がピアノを弾け  
なくなっても、音楽の道からそれるこ  
となく、音楽教育に身を捧げた人でし  
た。

一音会で実践を重ねながら、ピアノ指導法の体系である「江口メソッド」を開発しました。

そのたった一人の子どもである私は、幼い頃から母に教わってピアノを弾いてきたものの、音楽の道には進まず、一般の大学に進学しました。私の専門は、心理学です。

一音会のどまんなかで育ちながら、私が音楽を専門としていないことを意外に思われる方は少なくありません。

そして先の質問です。

「なぜ、アヤコ先生は、音楽の道に進まなかったのですか？」

たいてい私は、こう答えてきたと思います。

「ピアノが下手だったんです」

そうお答えすると、多くの場合、皆さん、ものすごく申し訳なさそうな顔になります。

顔に、「ごめんなさい。きいてはいけないことをきいてしまいました」と書いてあります。

あわてて突然、話題を変える方も、多くいらっしゃいました。

お気をつかわせてしまい、申し訳ありません。

これもウソではないのですが、これが理由、というわけではありません。

誠実にお答えすると、こうなります。

「私の母が望まなかったのです」

実際、正直にお答えしたこともあります。

質問された方は、たいへん驚かれました。

「寿子先生は、音楽の道に進ませなかったのに、アヤコ先生がご自身の意志で、音楽以外の道に進まれたのかと思っていました！」

皆さん、そう思っていたらっしゃるだろうなあと思っていましたので、その方の驚きは私の予想通りでした。

今、多くの方の誤解をときたいと思っています。

実際には、私は音楽の道を第一に考えていたのに、母が望まなかったので

す。いえ、はっきり反対でした。

私は大学に進学する時、ほぼ何も考えず、近所の大学に進学してしまいました。大学を選ぶという発想さえもなく、1つの大学しか受験していません。

よくおぼえていませんが、ぼんやりした高校生だったのです。

大学に進学してからは、少しもの考えるようになりました。

大学生となった私は、一音会の受付やリズムのアシスタントとして、母の仕事である一音会を手伝うようになっていました。

その影響もあるのでしょう、おそらくはじめて、私は自分の進路を考えるようになったのです。

私の大学は、入学時にはⅠ類、Ⅱ類、Ⅲ類と、おおまかな専攻分野が分かれているものの、何を専攻するのかは、大学2年生の秋になってから決めるシステムでした。

私はなんとなく「心理学をやろうかなあ」くらいに思っていました、正

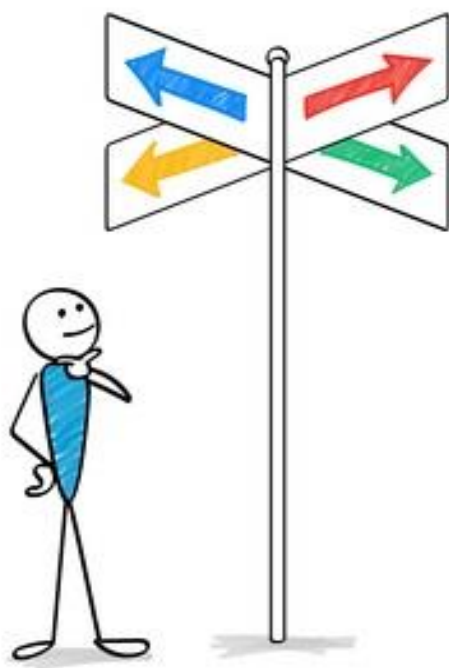
直、あまり熱意もありませんでした。

それよりは、母の仕事を手伝いたい。もっと役に立ちたい。そればかり考えていました。

そして、きちんと音楽の専門教育を受けて、母を助けられるようになりたい、と思うようになったのです。

そう決意した時、私は大学2年生になり、専門を決める学年になっていました。

進路を変えるなら、最後のチャンスかもしれない、と思いました。



私のピアノは、相変わらずパツとしませんでしたが、大学生になって多少、それまでよりも練習時間を確保することができるようになっていました。

ピアノ専攻が無理だったとしても、楽理なら何とかなるだろうと思っていました。音楽理論は、得意でした。

私は、母をびっくりさせようと、ないしょで音楽大学の願書を取り寄せていました。

「これからは、私がお母さんを助けるね」

私がそういったら、母はどんなに喜ぶだろう！

母はうれしくて、泣いてしまうかもしれない！

私からのサプライズです。

この時のことは忘れません。

母に決意を打ち明け、音楽大学の願書を母に見せた時、母は願書を手にとるや、不自由な手で破き、床に捨ててしまいました。

母の手は、病気で骨が変形し、いつ

も炎症をおこしていました。薄い紙を破くこともできなくなっていたはずでした。

かたくて厚い願書の紙を破くことができたことに、私は心の底から驚いていました。まさに渾身の力だったのでしょう。

母の顔は、ゆがんでいました。

怒りなのか、苦悩なのか・・・。

いらだちにも見えました。

母がいらだっている姿を見たのは、この時が最初で最後です。

わけがわからなくなっている私に対して、困ったことに、この時の母は、あまり言葉を発してくれませんでした。

母は母で、ひどくショックを受けているようでした。



しぼりだすように発した言葉が、これです。

「同じ人間は、2人はいない」

母は、少し落ち着いてから、こんなふうにいいました。

どうか、小さな子どもの心が分かる人になって。

心理学をきわめて。

幼児心理学、児童心理学、教育心理学、学習心理学、音楽心理学、すべてに精通して。

子育てに悩む教室のお母さんたちの話をきいてあげて。

助けてあげて。

心理学を学んで、「江口メソッド」を、科学的な視点でまとめて。

開発して。

論文にして。

英語で論文が書ける人になって。

海外にも広めて。

世界中の子どもが、この指導法を受けられるようにして。

これはね、全部、私がやりたくても

できないことなの。

私が生涯かかっても、できないことばかり。

人生を二度できるのなら、もう一度の人生でやりたい。

でも人生は一度きり。

どうか私と同じことをやろうとしないで。

私が自分でできることは、私が自分の人生でやる。

一人でやる。

手伝ってほしくなんかない。

私の道をたどってほしいと思ったことなんかない。

アヤコには、私ができなかったことをやってほしい。

同じ人間は、2人はいないのよ！

そして私は、心理学の道を選んだのです。

私は大きな勘違いをしていました。母と同じ道に行くことが、母を助けることになると思っていた。

分岐点となったあの日。母が音楽の

道をふさいでくれたことで、私は母とは違う道を進み、結果的に、自分だけの道を歩んできました。

それがいかにぜいたくな人生であったか、この年齢になってみると、よく分かります。

母は、私の人生を人マネではないものにするために、不自由な手で願書を破いてみせたのかもしれませんが。

そして、母があの時、はっきり否定してくれたことにも救われています。

もしあれほどのはっきりした否定がなければ、「やはり音楽の道に進んでおいたほうが良かったのではないか・・・」と悔いることもあったと思うのです。

今、私に悔いがないのは、母のおかげなのでしょう。

でも母は、私のためにそうしたわけではないのかもしれない・・・。

私にとっての分岐点である大学2年生に、私の娘がなった時、母の気持ちがようやく理解できたように思いました。

娘がもし、「心理学者になりたい。心理学者になって、お母さんの研究を手伝いたい」といったら、私は全然、うれしくないことに気づくのです。

「いや、私ができることは、私がやる。私が二倍、がんばれば良いこと。せつかく別の人間として生まれてきたのなら、私ができないことをやってほしい」

そう思います。

そうなのです。今、私は、あの日の母と同じことを考えています。

「私は私の人生をせいっぱい生きる。できることをがんばる。そして、私から生まれた命が、私ができなかったことをする。私の命が尽きても、もしかしたらそれは果たされる」

そう思うだけで、力がわくのです。

あの日の母は、私に賭けてくれたのかもしれませんが。そして私も、私が選ばなかったほうの道を、奇しくも選んだ娘に賭けているのかもしれませんが。

(江口 彩子)

## ◆「ピアノ・トライ」をおこないます

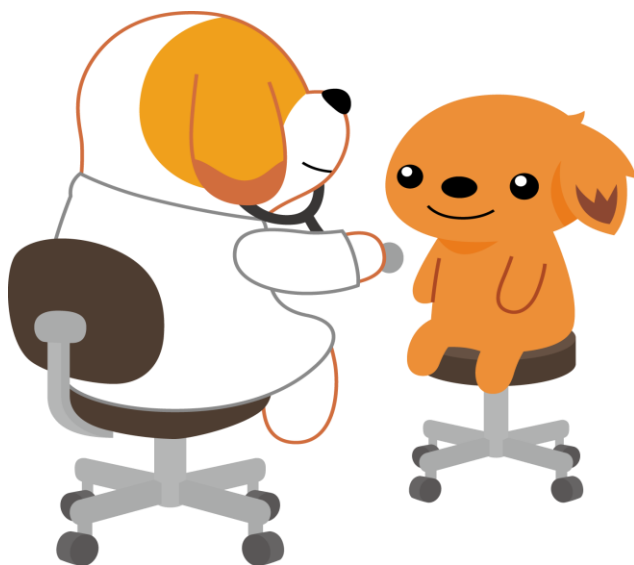
例年、「とらいあぐる」10月号のお知らせのメインは、「ピアノ・トライ」の要項でした。すでに曲のご準備にかかっている生徒さんも多い中、12月のお申し込みの要領や、1月～2月の実施について、お伝えしてきました。「もうそんな時期なのだな・・・」と、秋の深まりを感じるとともに、しみじみ思う時期です。

そのあたり前がかないません。本当に今年は、年の終わりになっても、散々なことが続きます。

今年は、いつもとやり方を変えた「ピアノ・トライ」をおこないます。そもそも「ピアノ・トライ」は、エチュードやバッハの作品といった、基礎力やテクニックにごまかしがきかない曲を課題曲とし、普段のレッスンの先生ではない、ベテラン先生が、お一人お一人の弾き方や表現や練習に問題がないか拝見し、さらに上手になっていただくためのアドバイスをお出しするものです。

ピアノ発表会の目的は、大きな舞台で普段の力を出すこと、です。演奏について、普段の先生以外の先生がアドバイスをさせていただくことはありません。「ピアノ・トライ」の目的は、普段の練習を見直し、さらに上手になっていただくこと、です。

いわば「健康診断」です。コロナを理由に健康診断を実施しない、というのは、それはそれで大きな弊害があると感じます。



今年は、皆さんが演奏しているところを動画に撮っていただき、それをお送りいただく形の「ピアノ・トライ」とさせていただきます。コメンテーターの先生が動画を拝見し、コメントをお出しします。

「ピアノ・トライ」をお受けになった方の中で、すてきな演奏をされた方には、「ひびきホール」でおこなわれる演奏会「ル・コンセール」にご出演いただきます。その点は、例年と同じです。

「ル・コンセール」は、部の人数を限り、全員入れ替え制とし、密を避ける形でおこないます。1回目を2021年2月14日（日）に、2回目を2月21日（日）に予定しています。

くわしくは、先月号の際、お配りしました今年の「ピアノ・トライ」についてのプリントをごらんください。プリントをなくしてしまった方は、さしあげますので、担当の先生か、ショパンはうす受付におっしゃってください。



## ◆今年の「ピアノ・トライ」

例年と異なることで、皆さまにはご不自由もあるかもしれませんが、普段とは違うことのメリットもあると思っています。

実施日をもうけませんので、ご都合の良い時に、撮影していただけます。土日にご予定が入りがちの方には、好都合だと思います。

わざわざ「ピアノ・トライ」のためだけに、教室に足をお運びいただく必要もなく



なります。お遠い方やお忙しい方には、ご負担の少ないやり方になるはずです。

実施日まで、演奏を保っておく必要もありません。一番、よく仕上がったタイミングで撮影していただくことができます。なんなら、もう撮影していただいて大丈夫です。

他、今年は1つ、試みをします。絵音符で出演される生徒さんには、動画を撮る際、楽譜を見ながら演奏していただきたいと思います。

絵音符の時代、『連続置き換え作業』ができていのかどうかを診断することが、とても重要です。『連続置き換え作業』とは、江口メソードの読譜で非常に重要視していることがらで、「楽譜を目で追いながら、手元を見ないで弾く力」をさします。これができないと、読譜力が伸びない他、ききおぼえに頼って弾くことになり、曲がある程度、難しくなった時に、挫折してしまいます。欠かせない基礎力です。

暗譜して弾いている姿からは、楽譜を目で追えているか、手元を見ないで弾けているか、判断しにくいことがあります。

今回、絵音符の生徒さんは全員、楽譜を見ながら弾いているところを、動画に撮るようにしてください。すでに暗譜ができている場合も、かならず楽譜を置いて弾いてください。

はじめて真の意味で、「健康診断」ができる、と思っています。「ル・コンセール」の時は、これまで通り、原則、暗譜です。

### (1) エントリー〆切

2020年12月2日(水) 24:00

Line のトーク画面で、お申し込みください。お名前、年齢(学年)、ピアノ担当をお知らせください。

従来方式のお電話でのお申し込みは不要です。

### (2) 動画提出〆切

2021年1月15日(金) 24:00

Line のトーク画面で、動画をお送りください。お名前、曲名(作曲者)、楽譜

の写真、動画、をお願いします。

※くわしいやり方は、先月号の際にお配りしましたプリントをご参照ください。

## (2) 参加費

2200円

※参加費は、お月謝引き落とし時(3月29日)に加算させていただきます。

## (3) 課題曲

以下の中から任意の1曲

- ① バッハおよびバロック時代の作品
- ② エチュード
- ③ ポリフォニーの曲

### ④ 「すすくミュージックスクール」のテキストの中の曲

※④は、今年新たに追加しています。「すすくミュージックスクール」のテキストとは、具体的には「おんぷの学校」、「ピアノの学校」、「音楽の学校」を指します。

普段すすめているテキストの曲で出ても良いことになれば、改めて「ピアノ・トライ」用の曲を用意する必要はなく、「ピアノ・トライ」の準備がテキストの進みに影響しなくて済みます。忙しい生徒さんは、メインテキストの中の曲を活用してください。

絵音符の生徒さん、まだ五線の曲に入ったばかりの生徒さんの曲目は自由です。先述の通り、動画の撮影の時は、かならず楽譜を見ながら演奏するようにしてください。



## ◆「フォルテの会」は予定通り開催します

例年、「ピアノ・トライ」の次のイベントは、「フォルテの会」です。「フォルテの会」は、声楽、ヴァイオリン、フルート、作曲、「うたくらぶ（合唱）」の発表会です。

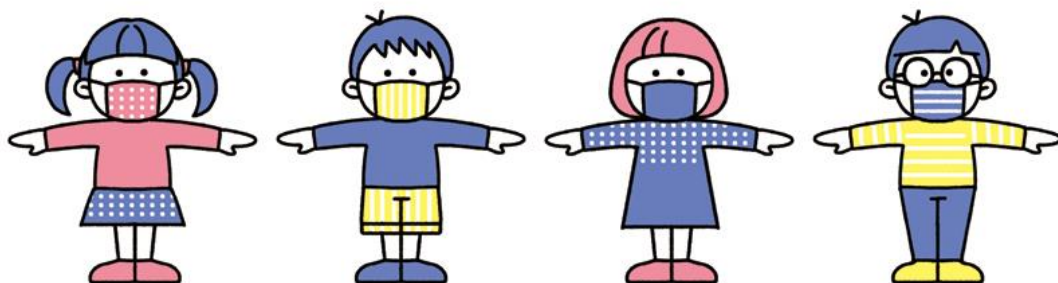
よほどのことがないかぎり、予定通り、2021年2月7日（日）に開催する予定です。「よほどのこと」とは、非常事態宣言および、それに匹敵する事態のことです。

客席の前半分を空席とし、演者の生徒さんの飛沫が客席の最前列に届かないよう、距離をとります。

「うたくらぶ」だけは、生徒さん同士を2メートル以上離すことが不可能なので、フェイスシールド着用のまま、舞台上上がっていただくこととします（「うたくらぶ」は、普段のレッスン時も、フェイスシールドを着用しています）。

客席は、椅子を相互に離して設置します。参加人数によっては、少人数の部編成とし、入れ替え制とします。

他にも、例年にないルールが出現し、生徒さん、ご家族の皆さま、客席の皆さまに、多大なご面倒をおかけすると思いますが、ご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。



## ◆感染症予防にご協力をお願いします

急に気温が下がり、風邪が流行っています。インフルエンザの流行も、今年は読めませんが、おそらくじきに流行期に入るでしょう。

今年は、コロナのことがあり、すでに感染症予防対策に、皆さまの多大なご理解と

ご協力をいただいています。一音会が教室を開けることができますのも、生徒さん、ご家族の皆さまの、協力体制あつてのことです。深く感謝しています。

秋冬を迎え、スタッフ一同、感染防止にさらに力を入れております。全スタッフがレッスン時、手指消毒用アルコールを携帯することにいたしました。生徒さんも、レッスンの際、先生のアルコールを使ってください。また、鍵盤を消毒するための専用消毒剤を、各部屋に設置しました。

換気のため、窓を開ける場合もございますが、音もれるという苦情が近隣から寄せられたことや、おとなの目がないところで、お子さまが転落する危険性を考え、換気のルールを変えました。換気中の窓には、スタッフがかならずつくようにします。

ともかく、コロナもたいへんですが、コロナだけが危険なわけでもありません。皆さまが安全に安心してレッスンを受けることができますよう、努力を続けたいと思います。



\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp)

電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。